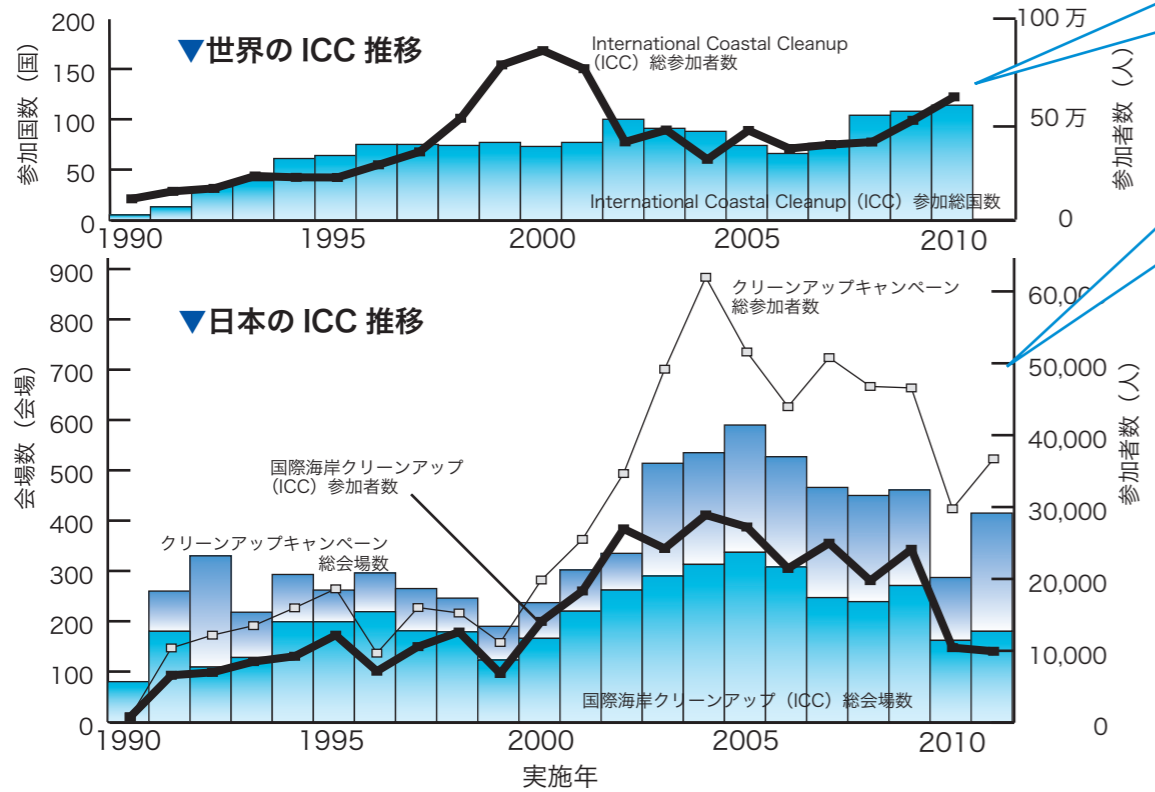


International Coastal Cleanup 2011

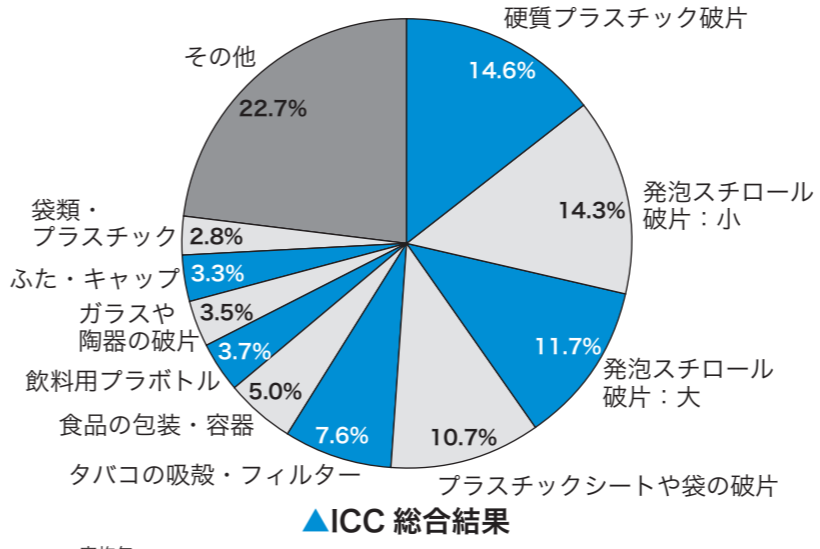
国際海岸クリーンアップ 2011 総合結果概要

2011年の秋の国際海岸クリーンアップ (International Coastal Cleanup: ICC) には、10,825人が参加しました。49 kmの水際 (海岸、河岸、湖沼岸)、水中および内陸から一つひとつ丁寧に拾い上げられたごみの総数は、380,311個にも達しています。ここでは総合結果の概要を紹介します。



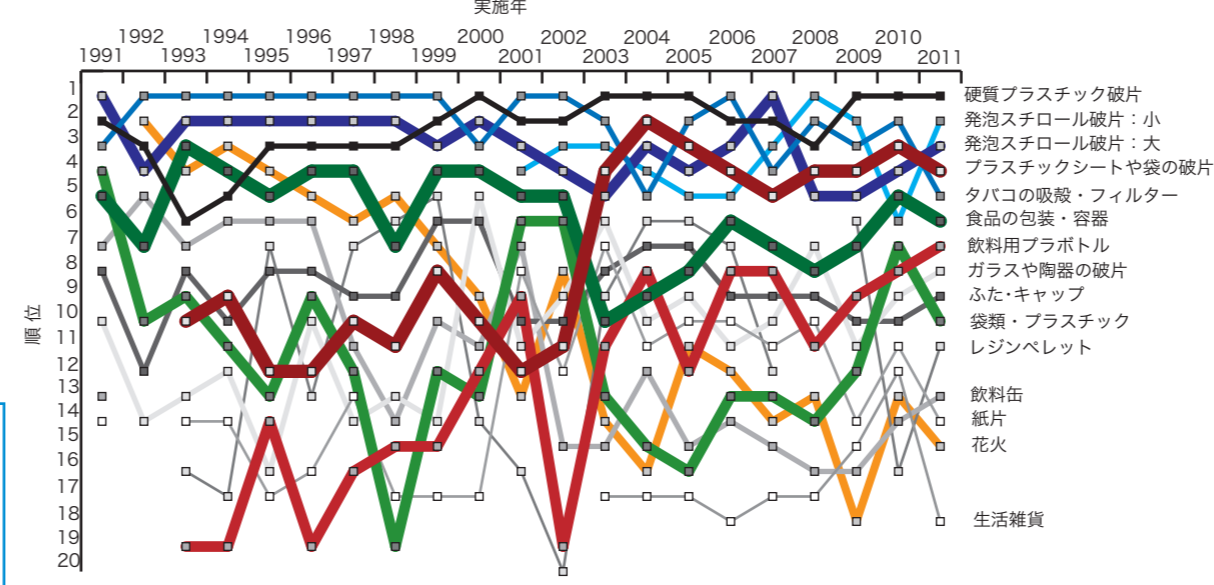
● 世界的には参加国数の増加で参加者数も増加傾向。

● 日本では2005年をピークに会場数、参加者数ともに減少傾向。

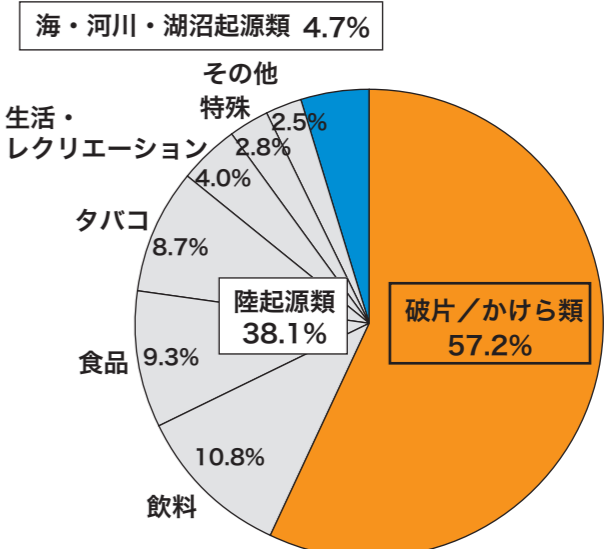


● 「破片/かけら類」は、7品目中5品目がワースト10。
 ● 「陸起源類」は、45品目中5品目がワースト10。
 ● 「陸起源類」に占めるワースト10の割合は全体の22.4%。ワースト20の割合は33.0%。
 ● 「海・河川・湖沼起源類」は、全体の3.7%、ワースト10なし。
 ● 「陸起源類」および「海・河川・湖沼起源類」の製品類のワースト10 (総合16位まで) は、製品類全体の75.8%、全体の32.5%。

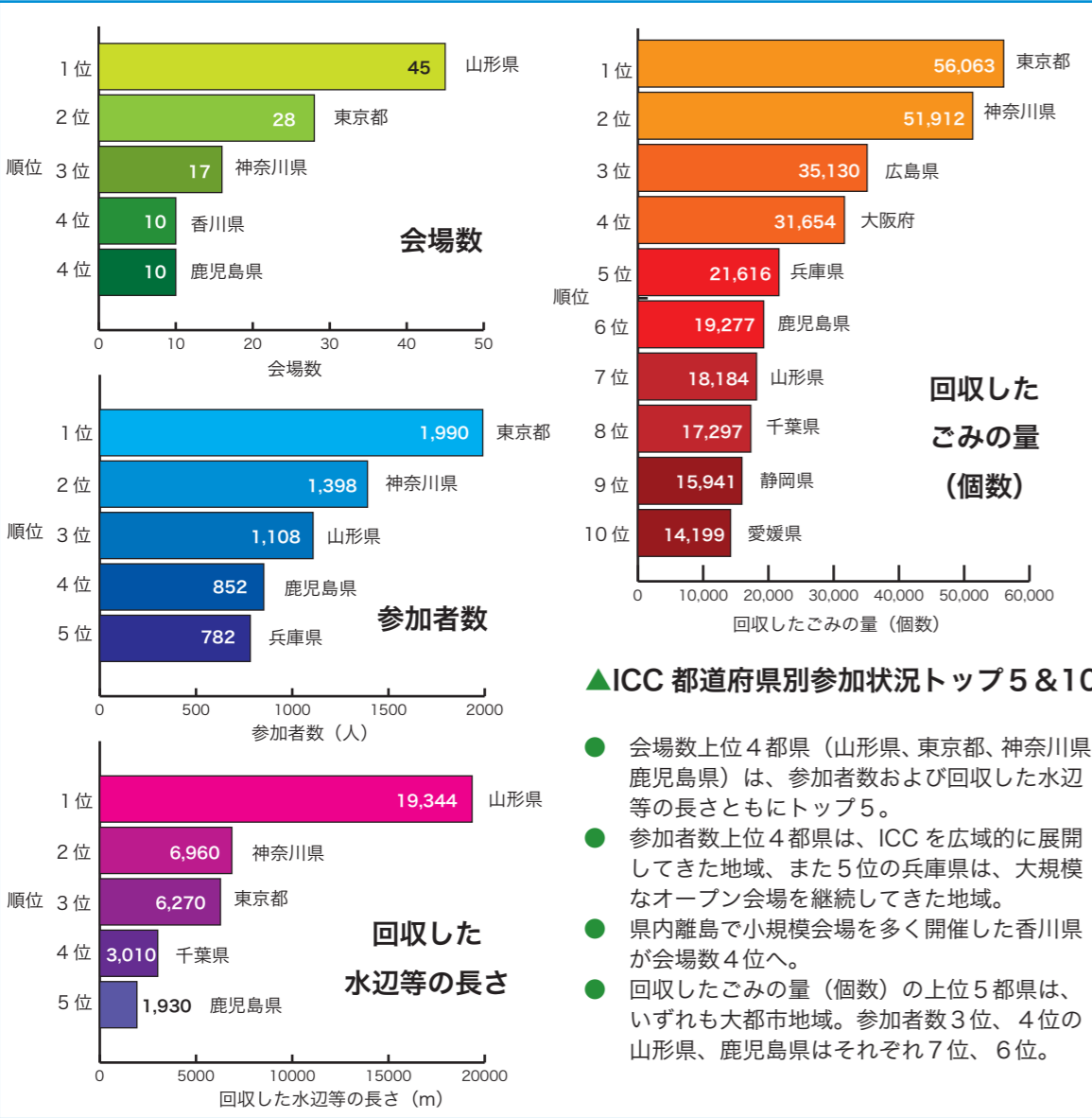
※ 総合結果とは ICC期間中 (9月、10月) に実施された水際 (海岸、河岸、湖沼岸)、水中、内陸会場の総計を示す。



● ワースト3の出現頻度: 1位 硬質プラスチック (19年)、2位 タバコの吸殻・フィルター (18年)、3位 発泡スチロール破片 (大) (14年)
 ● ワースト10の出現品目: 21年間大きな変化なし。
 ● ワースト1品目: タバコの吸殻・フィルター (1990年代) から硬質プラスチック (2000年代) へ。
 ● 21年間で順位上昇品目: プラスチックシートや袋の破片、飲料用プラボトル。
 ● 21年間で順位降下品目: 飲料缶、花火。
 ● 食品の包装・容器が2000年から順位再上昇。



● 「破片/かけら類」が57.2%と半数以上を占める。
 ● 「破片/かけら類」は海岸で5割を超えたが、河川・水中・内陸では4割。
 ● 「破片/かけら類」の1品目あたりの回収個数は、「陸起源類」と比較すると10倍以上。
 ● 「陸起源類」では日常生活に起因するものが8割以上。
 ● 海岸における「陸起源類」: 「海・河川・湖沼起源類」は8:1。



▲ ICC 都道府県別参加状況トップ5 & 10

- 会場数上位4都県 (山形県、東京都、神奈川県、鹿児島県) は、参加者数および回収した水辺等の長さともにトップ5。
- 参加者数上位4都県は、ICCを広域的に展開してきた地域、また5位の兵庫県は、大規模なオープン会場を継続してきた地域。
- 県内離島で小規模会場を多く開催した香川県が会場数4位へ。
- 回収したごみの量 (個数) の上位5都県は、いずれも大都市地域。参加者数3位、4位の山形県、鹿児島県はそれぞれ7位、6位。

まとめ

- (1) 数量もさることながら種類も多い。
- (2) 破片/かけら類が半数以上を占める。
- (3) 上位品目はここ数年大きな変化はない。
- (4) 破片/かけら類を除くと陸起源類と海・河川・湖沼起源類の割合は8:1。
- (5) 日常生活で私たちが使用しているプラスチック製品、特に「飲料・食品」「タバコ」「生活・レクリエーション」関係のごみが陸起源類の8割以上を占める。
- (6) レジンベレット (太平洋)、カキ養殖用パイプ (瀬戸内海)、硬質プラスチック破片 (太・日・東)、発泡スチロール破片 (瀬戸内海) に海域による特徴がある。
- (7) 製品類のワースト10は全体の3割しかなく、これらの発生抑制だけでは海ごみ問題を解決することはできない。

これら海洋に流出したごみは、一度海底に沈むと回収が困難となります。また海に流出したごみは、海の流れによって広域に拡散していきます。産業や医療に関わるごみの流出も大きな問題ですが、私たちは「飲料・食品」、「喫煙」、「生活・レクリエーション」など日常生活に起因するごみが海のごみの主体であることに気がかなければなりません。海と離れた陸上で生活する私たちの生活が、海洋に大きな負担をかけているのです。また近年、海岸に放置されたごみの破片化の進行は深刻です。特にプラスチックは、微小な破片となっても自然界では長期間分解されず、海の流れに乗って広域に拡散します。

本結果から見てくる効果的な対策は、全体の8割を占めるワースト10への集中的な対策です。そのためには、全体の半分以上を占める破片/かけら類の発生抑制が重要なカギとなります。破片/かけら類の多くは、海岸に漂着したものが紫外線による劣化や波浪による衝撃などによって破片化したものと考えられることから、破片化する前に海岸から回収し、海岸を常にきれいな状態を保っておくことが必要です。すなわち、海岸での回収も発生抑制の重要な活動の一つと言えます。よって海洋ごみ問題の解決のためには、ごみを出さないという発生抑制策の推進はもちろんですが、これまでに海洋に流出したごみによる問題の深刻化を防ぐためにも、今まで以上に回収を積極的、継続的、効率的に取り組むことが必要です。

美しい海を取り戻し、それを維持して行くためには、今後もみなさんによるクリーンアップの取り組みが必要です。